

「陽光を目指す先導役」を

果たしていくくために

世界経済がかつて例を見ないほどのスピードで落ち込みを見せている現在。商工会議所が『陽光を目指す先導役』を果たしていくための道標（みちしるべ）が中期ビジョン。地域の総合経済団体として、会員企業のため、また地域経済を元気にするために取り組んでいく事項など、3月16日の常議員会で承認議決された中期ビジョンと21年度から23年度までのアクション・プランをご紹介いたします。

中期ビジョン策定にあたって

平成18年3月に策定された旧中期ビジョン。「ビジョンは3年毎に見直すこととしており、平成20年度は旧ビジョンの最終年度だったことから、当委員会では、新中期ビジョンの策定を本年度の主要テーマに掲げて取り組んできました」と話してくれたのは、総務・政策・広報委員会の小川惇委員長（株久慈設計代表取



「部会・委員会では個々の事業枠にとられない連携活動も大事。市民も巻き込んだ活動もできれば、そこから新たな視点も生まれる」と小川委員長。

締役会長）です。同委員会は、会議所の運営方針や政策に関する事項を担当する他、事業計画・収支予算等毎年度の事業執行に関する事項や会議所ニュース『Sansa』等広報に関する事項を担当しています。「この3年間で経済情勢・社会情勢が急激に変わりました。それを踏まえ、商工会議所の担うべき役割として、喫緊の課題のほか、従来の商工団体としての枠組みを超えた取り組みも加えました」と小川委員長。新ビジョンには○地産地消、農工商連携等地域循環型経済への取り組み支援による地域経済の活性化○産業人材育成・確保対策の充実による地域中小企業の成長底上げと雇用促進○地球温暖

化など地球環境問題への啓発と活動の拡大という3項目が新しく商工会議所の役割として加えられました（P4概要※①参照）。
具体的な取り組みに向けて
 中期ビジョンのもとで具体的な取り組みを行っていく時、基本的な方針となるのが「取り組みに向けた12の指針」（P4概要※②参照）。経済・社会環境の変化とともに商工会議所の役割が広がる中、旧ビジョンの10項目に新たな2項目を加えた指針を掲げました。
 「新しい項目を加えるだけではなく、旧ビジョンの課題を検討し、従来の項目の内容も見直しました。委員会では東北新幹線の青森延伸への対応・平泉の世界文化遺産登録再チ



右/環境問題や農業分野など、これまでの商工団体の枠を超えた指針が加わる。これに対し、「大きなテーマであっても、盛岡の商工業者への貢献にうまくマッチングできれば、委員会活動に結びつけられるのでは・・・」と高橋委員長。

左/年々参加者、観光客が増える盛岡さんさ踊り。この資源を、どう活かすか。それは私たちの発想力と連携力しだいです。



「今回策定した新中期ビジョンのアクション・プランでは、何とかして地域経済を元気にしなければという思いから、5つのコンセプトキーワードを設定（P4概要※③参照）。特に、今回加えた雇用創出への貢献は、中小企業の活動すべてに関わる問題であり、現下の大きな課題です。各キーワードを具体的に体现する24項目の取り組み事項（P4概要アクション・プランI～V参照）は、その考え方や目標・進め方、関連する部会・委員会等も明示し役割も明確化。より具体的で実効性のある活動計画になっています」と今回のビジョンのポイントを話します。

新中期ビジョン策定にあたっては、1月末から毎週連続して委員会を5回開催しましたが、各委員にテーマやポイントを事前確認してもらったうえで会議に臨んでもらい、活発な意見交換ができたことが成果の一つだったといえます。集中議論を重ねた委員各位に改めて感謝申し上げます。

同委員会は昨年度、盛岡市が実施している高校生による「短歌甲子園」に連動して、石川啄木をキーワードに盛岡を「短歌のまち」として推進しようという企画を立案。観光客を中心に三行書きの短歌を詠んで投稿してもらおう事業を実施しました。「たとえばですが、短歌投稿のしくみを機に『啄木のふるさと 短歌のまち盛岡』の認知が広まったら、全国から投稿できるしくみをつくる。それが盛岡を訪れる動機づけになり、交流の糸口となっていくれば盛岡をブランド化するという最終目標に近づいていける」と今後について話す高橋委員長。各部会や委員会がそれぞれの特徴や強みを活かしながら、まずは、具体的な取り組みに汗を流すことが部会・委員会の活性化はもちろんのこと、会議所の存在意義を広くアピールすることになります。

「小規模な事業所では、ちよつと『困った』がよくあるんです」と市内でスクリーン印刷を手がけるサンプロセス工芸(株)社長の柳原亮治さん。「こんな事を手がけている会社を紹介して欲しいとか、書類の書き方やパソコンの操作がわからないといった、日々の業務で起こる疑問や困ったことを気軽に教えてくれたり、助けてもらえる窓口があれば」と柳原さんは注文します。

会員組織である商工会議所活動の原点のひとつは地域内相互扶助の精神ともいえる「結い」の思想。地域経済が疲弊する中、地域の中で地域に住む人達により循環する経済活動を活発化させる、そして地域や地域の事業者が抱える様々な課題を商工会議所を中心に連携し、助け合つて解決していくという考え方は、現下の厳しい経済情勢のなかで、今回のビジョンを中心に商工会議所活動の原点に返り、この「結い」の思想を様々な場面で体现していくことが中期ビジョン活動理念に掲げられた「活力ある地域経済社会創出の牽引役として一層の努力を尽くす」こととなるものと期待されます。

なかつた点についても多くの意見が出され、それらも踏まえながら、経済団体の枠に捉われず、多面的に地域づくりに貢献できるような指針としました」と小川委員長。さらに、「今回策定した新中期ビジョンのアクション・プランでは、何とかして地域経済を元気にしなければという思いから、5つのコンセプトキーワードを設定（P4概要※③参照）。特に、今回加えた雇用創出への貢献は、中小企業の活動すべてに関わる問題であり、現下の大きな課題です。各キーワードを具体的に体现する24項目の取り組み事項（P4概要アクション・プランI～V参照）は、その考え方や目標・進め方、関連する部会・委員会等も明示し役割も明確化。より具体的で実効性のある活動計画になっています」と今回のビジョンのポイントを話します。

「たたとえばですが、短歌投稿のしくみを機に『啄木のふるさと 短歌のまち盛岡』の認知が広まったら、全国から投稿できるしくみをつくる。それが盛岡を訪れる動機づけになり、交流の糸口となっていくれば盛岡をブランド化するという最終目標に近づいていける」と今後について話す高橋委員長。各部会や委員会がそれぞれの特徴や強みを活かしながら、まずは、具体的な取り組みに汗を流すことが部会・委員会の活性化はもちろんのこと、会議所の存在意義を広くアピールすることになります。

「たたとえばですが、短歌投稿のしくみを機に『啄木のふるさと 短歌のまち盛岡』の認知が広まったら、全国から投稿できるしくみをつくる。それが盛岡を訪れる動機づけになり、交流の糸口となっていくれば盛岡をブランド化するという最終目標に近づいていける」と今後について話す高橋委員長。各部会や委員会がそれぞれの特徴や強みを活かしながら、まずは、具体的な取り組みに汗を流すことが部会・委員会の活性化はもちろんのこと、会議所の存在意義を広くアピールすることになります。

ヤレンジ・次世代の健全育成をはじめ、まちづくりや地域の活性化に有効なスポーツの振興など、北東北全体を見据えた視点やこれまであまり目を向けられなかった24の取り組み事項については、それぞれの項目毎に目標実現に向けた具体的な取り組みを毎年度の事業計画に盛り込み、関連する部会・委員会の協力を得ながら取り組んでいくこととなります。

「たたとえばですが、短歌投稿のしくみを機に『啄木のふるさと 短歌のまち盛岡』の認知が広まったら、全国から投稿できるしくみをつくる。それが盛岡を訪れる動機づけになり、交流の糸口となっていくれば盛岡をブランド化するという最終目標に近づいていける」と今後について話す高橋委員長。各部会や委員会がそれぞれの特徴や強みを活かしながら、まずは、具体的な取り組みに汗を流すことが部会・委員会の活性化はもちろんのこと、会議所の存在意義を広くアピールすることになります。



盛岡商工会議所中期ビジョン（概要）

—平成21年度～平成23年度アクション・プラン—

新アクション・プラン策定にあたって ※①

- ①旧中期ビジョン（平成18～20年度アクション・プラン）の成果と課題を明確化
- ②旧中期ビジョン策定後の環境変化について確認
- ③上記を受け盛岡商工会議所の役割を再確認（3項目を追加）
 - 地域経済の基盤を支える中小小規模企業に対するきめ細かい支援
 - 単一業種支援に加え、異業種交流など中小企業間の連携への支援
 - 「コンパクト化と賑わい回復の両立」によるまちづくり、観光振興などによる地域活性化等の諸施策において、民の立場からの先導的取り組み
 - 岩手県及び盛岡市の施策に連動した取り組みによる産業振興の相乗効果の発揮
 - 少子高齢化問題等、人口減少時代の課題についても経済団体の立場として積極的に対応
 - 他の経済団体、農林水産関係団体、市民団体等との連携強化とその要としての役割の自覚
 - 地産地消、農工商連携等地域循環型経済への取り組み支援による地域経済の活性化（新）
 - 産業人材育成・確保対策の充実による地域中小企業の成長底上げと雇用促進（新）
 - 地球温暖化など地球環境問題への啓発と活動の拡大（新）

厳しい現下の経済状況から旧アクション・プランで定めた活動理念をゆるぎないものとして堅持する。

活動理念

盛岡商工会議所は、経済社会の環境変化に対応した役割と責任を自覚し、活力ある地域経済社会創出の牽引役として一層の努力を尽くす。

現下の経済状況および商工会議所の役割を再確認し、旧アクション・プランにおける10の指針に2項目を加え12の指針とする。

取り組みに向けた12の指針 ※②

- 地域経済社会の声を行政施策に反映させ、実現する
- 中小企業の経営基盤の強化、経営改革を積極的に支援する
- 創業支援、ビジネスチャンスの創出拡大及びものづくり基盤の育成に取組む
- 中小企業、地域社会の国際化、情報化を支援する
- まちづくり、地域づくりに積極的役割を發揮する
- 人口減少時代の諸課題にも積極的に対応する
- 広域的な経済活動に取り組む
- 会員ニーズに的確に応える会員サービス事業の拡充に取り組む
- 商工会議所の組織運営の活性化に取り組む
- 商工会議所の財政運営の改善に努める
- 雇用不安解消に向けた支援に取り組む（新）
- 地球温暖化防止に向けて取り組む（新）

12の指針に基づきアクション・プランを策定。

アクション・プラン ※③

旧アクション・プランのコンセプトキーワードに「雇用創出への貢献」を加え5つのコンセプトキーワードとし、24の取り組み事項・39の具体的な活動計画を策定。

今回のアクション・プランでは、取り組む事業毎に取り組みの考え方、目標、進め方等を明示し、定量評価が可能なものについては目標指標を定めるなど実施結果の評価が出来るように改善。

I 人が集まるまちづくりへの貢献

- (1)中心市街地活性化基本計画等によるまちづくりの推進
- (2)まちなか再生整備の推進
- (3)中核市としての盛岡市への提言
- (4)観光振興への取り組み
- (5)スポーツ振興への取り組み
- (6)盛岡ブランド創出への取り組み
 - ①短歌のまちもりおか推進事業
 - ②盛岡もの識り検定
- (7)少子、高齢化への取り組み
 - ①もりおか子育て応援パスポート事業
- (8)地球温暖化など地球環境問題への啓発と活動の拡大

II 中小企業へのきめ細かい支援

- (1)支援諸制度の効果的な活用
- (2)中小企業間の連携による新技術・新商品の開発支援
- (3)他関係機関との連携強化
- (4)中小企業のデジタル化・ネットワーク化の推進

- (5)中小小規模事業者への相談サービスの充実

III 地域経済活性化への貢献

- (1)産学官連携
- (2)工業団地の支援
- (3)工業集積に向けた取り組み
- (4)ものづくり産業創出への支援
 - ①農工商連携事業
 - ②南部鉄器フォー・ユーロ・プランディング事業
 - ③盛岡市産アロニア商品化事業
- (5)地域循環型経済への取り組みによる地域経済の活性化
 - ①地域商品券（通貨）発行
 - ②地元食材活用推進事業の一層の推進

IV 雇用創出への貢献（新）

- (1)岩手県地域ジョブ・カードセンターの運営
- (2)創業・経営革新支援による雇用機会の創出

- (3)「検定拡充3%アップ運動」による受験者の拡大とキャリア取得の支援

V 会議所運営の活性化

- (1)会員サービス事業の拡充
 - ①ビジットメンバーズキャンペーン
 - ②会員事業所の情報発信支援
 - ③『ビジネスモール』参加による情報発信支援
 - ④会員交流事業の推進
 - ⑤会員表彰事業の充実
- (2)運営組織の活性化
 - ①部会・委員会等の活性化
 - ②常議員会の活性化
 - ③青年部、女性会の活動
 - ④都南地域運営協議会
 - ⑤玉山地域運営協議会
 - ⑥事務局職員の資質向上
- (3)財政運営の改善
 - ①会員増強運動
 - ②共済制度の推進
 - ③中期財政見通しの作成分析